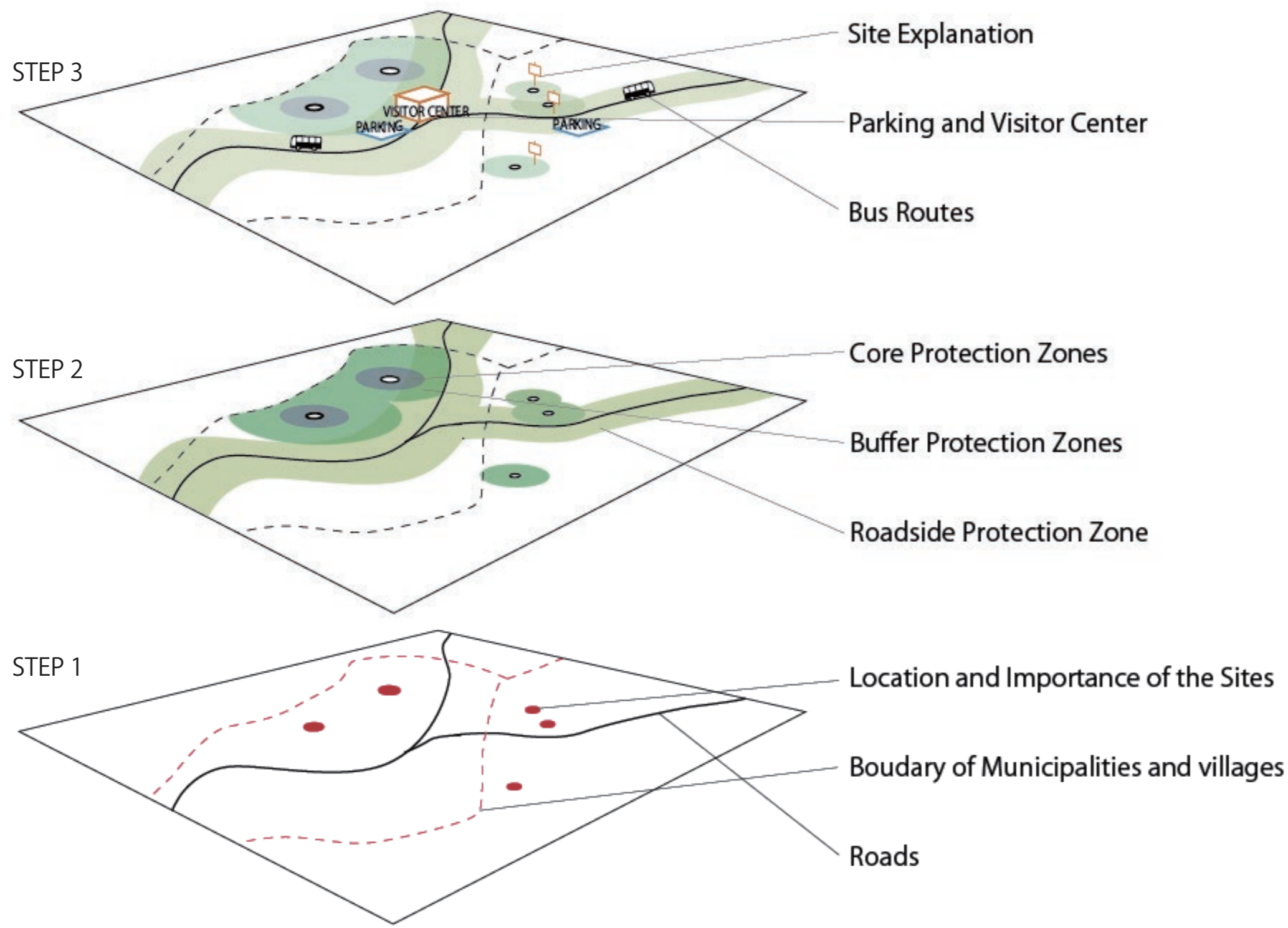




ルンビニ郡の無名遺跡の一例 (木の根が成長とともに地中の古代遺跡を持ち上げ、建物の壁であろうと推測されるレンガが露になっています。)

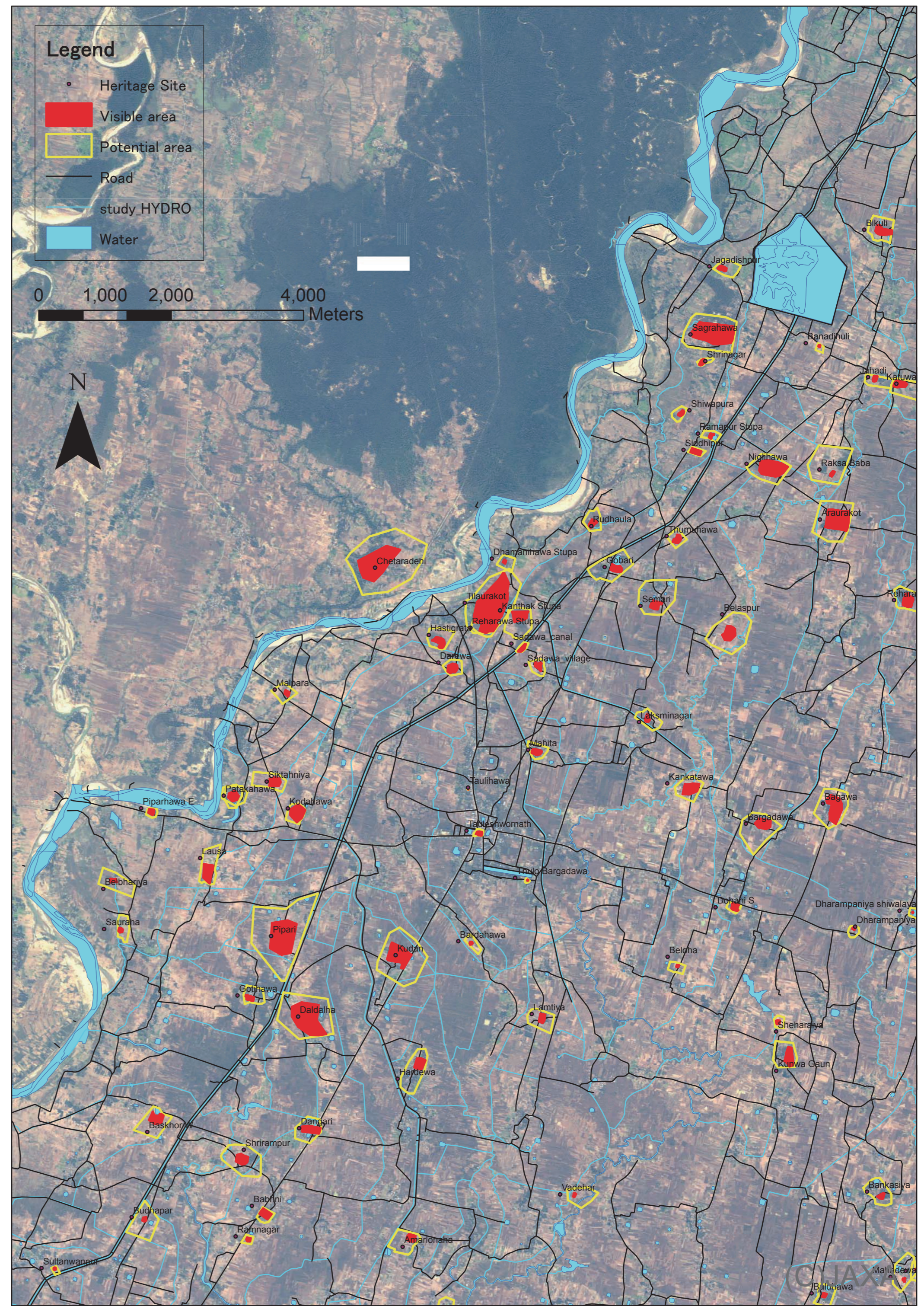
1997年ユネスコの世界文化遺産に登録された「仏陀の生誕地ルンビニ」には、当研究室の創立者である丹下健三先生が整備方針をまとめたルンビニマスタープラン(1978年)があります。しかし整備事業の遅れにより、マスタープランを無視した無秩序な開発や、当時想定していなかった問題が生じてきました。本プロジェクトは、ユネスコの依頼により西村教授がリーダーを務める国際専門家チームの1つとして、2010年より活動を続けています。丹下プランの再解釈(フェーズ1:2010-2013)から、現在は世界遺産ルンビニの周辺地域に射程を拡げ、世界遺産暫定リストにあるティラウラコット(シャカ王国城跡と言われる)を中心に、その他無数に点在する遺跡群の保存と、観光に基軸をおいた地域開発を一体的に捉えようとする地域保全計画の策定に向け、調査を行っています(フェーズ2:2014-2017)。なお、本プロジェクトが対象とするタイ地域は、インドとの国境にある平坦な地で、米と麦の二毛作農業を生業とする、ネパールでも貧困率や非識字率が高い地域です。1967年、当時の国連事務総長ウ・タント氏の訪問が契機となり、空港・道路整備とともに計画された丹下プラン、そして現在、ネパール第2の国際空港がルンビニ地域に整備されようとしています(ADBプロジェクト:空港からの電気自動車導入計画)。文化遺産の保存と地域の観光開発が、最終的には地域住民の生活向上に繋がることを目標に、プロジェクトを進めています。

## UNESCO project ルンビニ周辺地域の保全計画立案に向けた3つのステップ (カピラバスツ郡)



文化遺産を管轄するネパール政府考古局には、世界遺産ルンビニや世界遺産暫定リスト・ティラウラコット等の主要遺跡以外の遺跡に関し、リストや記録がほとんどなく、保存管理も十分行われていません。地域保全計画立案には、遺跡群が、どこに、どれだけあるのか、正確な地図情報が必要となります。昨年度は、その第一歩として、カピラバスツ郡(ティラウラコット所在)の遺跡群を対象に、考古学者らとGPS(Global Positioning System)を用いた記録調査を行い、JAXAから衛星写真の提供を受け、GIS上で地図化し、調査した136遺跡のカタログを作成しました(STEP1)。

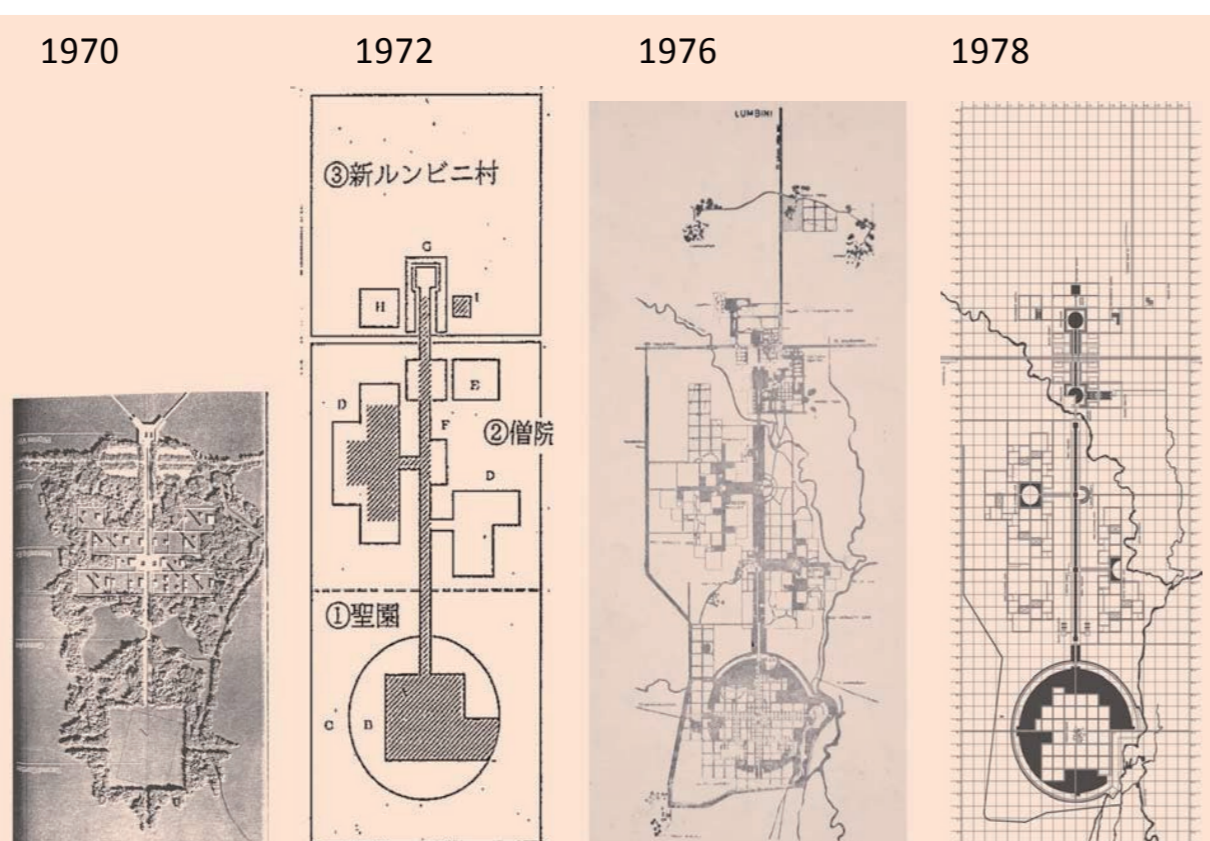
今年度はカピラバスツ郡に続き、世界遺産ルンビニが所在するルンビニ郡の遺跡群を対象に、昨年度同様の調査を開始しました。6月以降、地域保全計画策定に向け、都市開発省(国)や地元行政(郡や市)との協議を開始し、保全地区範囲の設定や見直しと、現行の開発規制内容(接道義務・接道要件及び建築の階数・高さ制限)に対する検討を行う予定です(STEP2)。8月以降2017年7月までは、現地調査を行いながら、昨今ネパール政府により策定された地域観光開発計画を踏まえつつ、発掘を担う英国ダラム大学考古学チームと協働し、ティラウラコットを中心とする遺跡群の保存と観光に基軸をおいた計画を具体的に立案する予定です(STEP3)。



カピラバスツ郡の遺跡マップ (JAXAのALOS「だいち」データ2009~2011年使用)

## LUMBINI 丹下プランに基づいた整備提案 (フェーズ1:2010-2013)

■マスタープランの再解釈  
散逸資料の収集や当時の関係者ヒアリングを行い、丹下プランが最終形に辿り着くまでの変遷を追うことで、観光需要や経済状況が変化した現代においても適用可能な設計原則及び全体骨格を明らかにし、当初から地域計画の視点があったことも確認しました。



マスタープランの変遷

